

最近の動き: 2023年の東アジア・太平洋地域(EAP)の成長率は、2022年の3.4%から5.1%に回復した。主な背景としては、コロナ規制解除後の中国で年初に一時的に経済活動が活発化したことが挙げられる。しかし、経済活動再開の効果はすぐ失われた。不動産部門で売上げ減少と価格下落が開発業者の財務状況を圧迫するなど低迷が続き、投資が伸び悩んだ。また、輸出は外需の低迷を受け、年末にかけて消費が改善したものの、消費者意欲は依然としてコロナ前の水準を大きく下回った。

域内の他の国々では、国際的な財の貿易低迷も一因となり、2023年の経済成長は鈍化した。経済規模が大きいいくつかの国では、2023年の大半を通じて財輸出が落ち込んだが、国際観光業の回復が続いたことでサービス輸出が好調となり、部分的には緩和された。また、域内諸国の大半で、財貿易の不振が、好調な労働市場とインフレ鈍化に支えられた旺盛な個人消費によって相殺された。

今後の見通し: 地域全体の成長率は、主に中国の成長鈍化により、2024年に4.5%、2025年には4.4%への減速が予測される。中国を除いたEAP地域の成長はわずかに勢いを増し、2024年、2025年とも4.7%の堅実な成長が見込まれる。特に太平洋島嶼国では今年、観光業の回復が続いていることで、際立った成長が予想される。前回の見通しと比較すると、EAP地域の成長率は2024年と2025年にそれぞれ0.1ポイント低い予想となっており、予測対象期間中にさらに鈍化してコロナ以前の水準を下回るとみられる。

中国の成長率は2024年に4.5%に減速し、2025年にはさらに4.3%になると予想される。6月の前回見通しと比較すると、主に内需がやや減少したため、2024年、2025年の成長率はともに0.1%ポイント下方修正された。消費は、消費者マインドの冷込みと経済の不確実性の増大を受けて、大きく低迷するとみられる。投資の伸びは引き続き抑制されるものと予想される。インフラ支出に支えられる半面、不動産部門の低迷が続いていることが足かせとなるためだ。予測対象期間を通じて、債務の拡大、労働力の高齢化と減少、生産性向上余地の縮小などの構造的な逆風が、経済活動の重荷となることが予測される。

中国を除くEAP地域では、個人消費を中心とする堅調な内需が成長の主たる原動力になると予想される。緩やかなインフレと、多くの場合、活発なサービス活動に支えられた堅調な労働市場を背景に個人支出が続くとみられる。一部の国では、社会保障や公務員の賃金など政府支出の増加も需要を下支えするであろう。投資の伸びは一段と抑制され、2024年から2025年にかけて多くの国でコロナ前の平均を下回る見通しだ。その背景には、遅れて表れる金融引締め政策の効果、一部の国での政権移行に伴う政策の不確実性、債務残高の増加など、民間投資に対するさまざまな逆風がある。さらに、公的債務が増加し財政余力が乏しくなっているため、公共投資の伸びは抑制されるとみられる。

リスク: 東アジア・太平洋地域の成長のベースライン予測には、主に中国の成長が予想を下回る可能性と地政学的な緊張の高まりを中心とした下振れリスクが伴う。中東での紛争は激化しかねず、その場合は不確実性が高まり、エネルギー供給が混乱する。その他の下振れリスクとしては、世界貿易の低迷の長期化、予想以上に厳しい財政状況、気候変動に関連した異常気象による被害などが挙げられる。不確実性が高まり貿易不振が続くと、投資の伸びを持続的に抑え、既に鈍化が予測される域内の潜在的な成長に悪影響を与えかねない。対照的に、米国で予想を上回る成長がみられれば、今回の見通しが上振れする可能性もある。

「世界経済見通し」報告書本体のダウンロードはこちら: <https://www.worldbank.org/gep>.

東アジア・太平洋地域国別見通し

□ 別途記載がなければ前年からの変化率□：単位%

	2021	2022	2023e	2024f	2025f
市場価格□□□ GDP□ 2010-19年の米ドル平均値換算□					
カンボジア	3.0	5.2	5.4	5.8	6.1
中国	8.4	3.0	5.2	4.5	4.3
フィジー	-5.1	20.0	7.6	4.0	3.7
インドネシア	3.7	5.3	5.0	4.9	4.9
キリバス	7.9	1.2	2.5	2.4	2.3
ラオス□□□□□□□□	2.5	2.7	3.7	4.1	4.3
マレーシア	3.3	8.7	3.9	4.3	4.2
マーシャル諸島 ^a	1.0	-4.5	3.0	3.0	2.0
ミクロネシア連邦 ^a	-3.2	-0.6	2.8	2.8	1.3
モンゴル	1.6	5.0	5.8	6.2	6.4
ミャンマー ^{ab}	-12.0	4.0	1.0	2.0	..
ナウル ^a	7.2	2.8	0.6	1.4	1.2
パラオ ^a	-13.4	-2.0	0.8	12.4	11.9
パプアニューギニア	-0.8	5.2	3.0	5.0	3.1
フィリピン ^a	5.7	7.6	5.6	5.8	5.8
サモア ^a	-7.1	-5.3	8.0	4.5	3.6
ソロモン諸島	-0.6	-4.1	1.8	2.7	3.1
タイ	1.5	2.6	2.5	3.2	3.1
東ティモール ^a	2.9	3.9	2.4	3.5	4.3
トンガ	-2.7	-2.0	2.6	2.5	2.2
ツバル	1.8	0.7	3.9	3.5	2.4
バヌアツ	0.6	1.9	1.5	2.6	3.5
ベトナム	2.6	8.0	4.7	5.5	6.0

出所：世界銀行

注：e = 推定値 f = 予測値

世界銀行の予測値は、最新情報と（世界的な）情勢変化に基づき頻繁に更新される。そのため、ここに示す見通しは、各国の基本見通しが各時点で大きく変わらないにしても、世界銀行から発表された他の見通しと異なる場合がある。

a. 会計年度ベース□値

b. ミャンマーの2024年度（2025年3月□□□1□□）以後の会計年度の予測値は、不確実性が高いため除外